

# 如月俳句・短歌集

## 篠南川柳会

お小言は聞いたふりして上の空  
 ちらし寿司そつと寄り添う紅しようが  
 山積みの本は動かさずホコリ積み  
 ほほ紅が可愛い母は認知症  
 あれ食うなこれも悪いと処方せん  
 年金を待ち兼ねている空財布  
 紅差せば余計に目立つシミシワが  
 茶も出さずゆつくりせよと世辞を云い  
 あの世までついてこないで貧乏神  
 師走には掃除多すぎ間にあわず  
 輸入品国内市場食い荒らす

## 菊川俳句会

友訪へば小さき部屋で冬眠中  
 枯れ枝にテニスボールの実二つ  
 盃を持って集まれ牡蠣が旬  
 遠山は白く里山は大根干す  
 閉校と決まりし子等とペ作り  
 初夢や共に在りたし首都五輪  
 霰降る言葉巧みなセールスマン  
 庭の木も春の訪れ呼びかける  
 歳暮紅まどんな恭しくてあり

## はじめまして。赤ちゃん。

12月受付分(敬称略)

| 地区名  | 子の名 | 保護者  |
|------|-----|------|
| 久良岡  | 小久  | 鉄の乃喜 |
| 城辺甲  | 小琴  | 和孝   |
| 御荘平城 | 琴焔  | 喜喜   |
| 城辺甲  | 大陽  | 和斗   |
| 御荘平城 | 陽菜  | と斗子  |
| 御荘平城 | 清大  | 環    |
| 正木   |     |      |

## ご冥福をお祈りします。

12月受付分(敬称略)

| 地区名  | 亡くなった方 | 享年  |
|------|--------|-----|
| 家串   | 織田ノブ   | 89歳 |
| 船越   | 伊田正    | 72歳 |
| 中浦   | 和田志    | 85歳 |
| 城辺甲  | 徳田サコ   | 86歳 |
| 御荘平城 | 西田ナコ   | 85歳 |
| 正木   | 茨木オ    | 87歳 |
| 広見   | 宮岡ヨ    | 89歳 |
| 緑乙   | 松本子    | 81歳 |
| 魚神山  | 児島子    | 93歳 |
| 城辺甲  | 立花子    | 71歳 |
| 中泊   | 吉田人    | 66歳 |
| 城辺甲  | 西田男    | 86歳 |
| 久良   | 中田文    | 66歳 |
| 御荘長月 | 青木嘉男   | 93歳 |
| 御荘平城 | 本田義夫   | 96歳 |
| 城辺甲  | 山田口    | 80歳 |
| 久荘平城 | 中山江    | 90歳 |
| 満倉   | 和川二    | 91歳 |
| 城辺甲  | 中島子    | 76歳 |
| 城辺乙  | 児島美    | 92歳 |
| 船越   | 吉田美    | 93歳 |
| 柏崎   | 増元子    | 87歳 |
| 城辺甲  | 堀金男    | 73歳 |
| 城辺乙  | 前田誠    | 66歳 |
| 上大道  | 谷泉薫    | 47歳 |
| 御荘平城 | 川崎廣    | 72歳 |
| 僧都   | 池田ミ    | 87歳 |
| 御荘平城 | 時岡子    | 92歳 |
| 樽見   | 猪野一郎   | 84歳 |
| 御荘長月 | 下田美    | 79歳 |
| 城辺乙  | 清家惠    | 92歳 |
| 城辺甲  | 二宮三    | 91歳 |
| 満倉   | 小川ク    | 92歳 |
| 城辺乙  | 大野美    | 66歳 |
| 福浦   | 菊地ト    | 90歳 |
| 僧都   | 大場淳    | 56歳 |
| 御荘平城 | 幸田子    | 81歳 |
| 船越   | 岡田吉    | 59歳 |
| 中浦   | 安田正    | 85歳 |
| 油袋   | 織田清    | 66歳 |
| 御荘平城 | 益田久    | 83歳 |
| 御荘平城 | 埜下夫    | 79歳 |
| 僧都   | 草木原満   | 99歳 |

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。

田中すみ子  
 田中 保美  
 田中 清子  
 木本 京子  
 芝田 憲蔵  
 谷口千代子  
 前田由紀子  
 松本もとお  
 松本 安子  
 篠原みち子  
 射場ちずる

宮下 熊夫  
 長田 高明  
 中川 一喜  
 長尾 則夫  
 井関 禎美  
 井関 満子  
 小野山シマ子  
 長田千恵美  
 早織梨

## 内海俳句会

あけまして三日坊主の日記買う  
 梅の枝空の青さに背伸びして  
 みかんの実黄色い指にはしやく子に  
 名湯の素かきまぜて初湯かな

橋本ひかる  
 瑞貴  
 小野山果林  
 村尾加都子

## さわらび短歌会

現し世に遊び心や波の花  
 牡蠣打つやそびらに尖る波頭  
 早春之不言実行頑に  
 春の虹過去の幻影彩どりぬ

諸々の人のやさしさに支えられ九十五回目の春を迎えん  
 釣り好きの従兄弟の休暇もあと少し釣りたて刺身の味わい深し  
 小柄の夫風格欠くも婚前に新居文具店オーナーなりし  
 お大事にと言ふ看護師にハイしますと言へばあけつびろげに笑ふ  
 病癒えて妻の作りし久々の湯気立つ食事に安らぎのぼる

「今日は」元気な声の少年にパツと明るくバスの中なる  
 蜘蛛の巣を払いて夫と山路行くアサギマダラの姿を追いつつ  
 難聴の吾の扱ひ子は慣れて時には巧みにジェスチャーをする  
 高茂岬の真昼穏しく日の差して傾り一面のぢぎくの花  
 お千代さんの歌に思い出ある人ら沿道うめて極見送る  
 北風に落ちる夕陽は煽たれてわが家も一瞬暗くなりたり  
 短冊に文字整わず立つ窓にきのう吊りたる干し柿揺るる  
 帰る列車のホーム間違え晩くなりしとマドロスの息子陸は苦手と  
 ラジオから父母愛唱の「薊の唄」惣菜作りの手を休め聞く

田中久二恵  
 扇野八代生  
 宮本よりこ  
 吉田 信保  
 澤近 正弘  
 木本 清子  
 河上 明美  
 岩村千代子  
 前田 充  
 前田 知子  
 前田 昭夫  
 松本マス子  
 山本 豊子  
 山崎 能子

